

**柏市こども発達センターキッズルーム（親子通園）
支援プログラム**

営業時間	午前8時30分から午後5時15分まで
サービス提供時間	午前9時50分から午後2時20分まで
送迎実施の有無	送迎あり（但し、利用条件あり）

1 事業所理念

子どもは、生活の大部分が遊びであり、遊びの中で様々な力を獲得していくものである。

各感覚の働きを通じて受動的に外界を受けとめる段階から、自分の手・足・体を使って積極的に外界に働きかけ、様々な物や人と関わりを持つことで色々な関係をつかみ、ことばを獲得していく段階へと進んでいく。これらは、すべて「楽しさ」を伴った活動（遊び）の中で子どもが身につけていくものと考えられる。キッズルーム（親子通園）での活動は、「子どもにとって楽しいことか」「子どもが意欲的に取り組めるか」という点を基準に考えていくものとする。

担当者は、子どもの身体的・精神的特性をよく理解し、子どもに関わる各職員からの情報を共有し取り入れながら、一人一人に合わせた支援を行っていく。また、児童発達支援計画に沿って、保護者と共通理解を持ち療育を進めていく。

以上の事柄を踏まえ、以下の点を支援方針（目標）とし、活動を展開していく。

2 支援方針

(1) 個を大切にす。

集団の流れの中でも個人の目標を見失わないという意識を保

護者にも心掛けてもらう。また、他の子の成長をも共に喜び合っているような雰囲気作りを心がける。

(2) 経験を広げる。

繰り返すことと新しいことのバランスを考えながら、子どもの経験を質・量ともに豊かなものにしていく。

(3) 意欲を育む

好きなもの、好きな人をつくり、それを見つけて自分から関わりをもち「おもしろい・楽しい」「やってみたい」という経験をさせていく。

(4) 友だちへの関心を育てる。

子ども同士がお互いを意識し、影響し合える環境作りに留意する。

(5) 集団活動への取り組み

子どもたちが自由に活動する場面と、指示に従う必要がある場面等、子どもたちの状況を見ながら対応する。今は我慢を求められている場面かどうかを保護者にも理解してもらえるように伝えていく。

(6) 親子分離について

状況に応じて親子分離を行い、子どもの新たな可能性を探っていく。

(7) 保護者への療育支援

ア 子どもと楽しく遊べるように、また、日常生活上での具体的な関わり方を学んでもらえるように、保護者と共通理解を図りながら支援を進めていく。保護者が自分で考え、判断して行動できるようになることを目指していく。

イ 子どもが外界と関わりやすく、活動意欲を高めるような姿勢・介助の仕方を理学療法士と作業療法士の支援を受けながら保護者にも理解してもらう。

ウ 進路の相談に関しては、子どもの状況、保護者の意向等を十分に把握する。必要に応じて関係機関との連絡・調整を行

う。

3 支援内容【本人支援の内容と5領域との関連性】

(1) 健康・生活

ア 健康

(ア) 体温，機嫌，その他きめ細かな観察，保護者からの聞き取り等により，医療的ケアの状態も含め健康状態を把握し，健康状態の維持・改善に努める。

(イ) 通園しながらの必要な睡眠時間を確保し，活動時間の調整等で覚醒のリズムを作る。子どもの体力に合わせ，登園日や降園時間を配慮する。

イ 食事「摂食機能の向上を図る」

(ア) 嚥下の仕方を覚える。

(イ) 調理形態の工夫，スプーン，食器の工夫等を行う。

(ウ) 食べやすい姿勢の配慮を行う（机，椅子の工夫）。

(エ) 食べたい気持ちを育てる（手づかみ/スプーン/フォークの使用）。

(オ) 自食を促す（見てすくう。こぼさず食べる）。

ウ 排泄「子どもに合った方法での排泄習慣がつくよう促す」

(ア) おむつの確認をする。快適な状態を心がける。尿や便の量や状態を見て健康状態を知る。

(イ) オムツをはずし，快・不快を感じられるようにする。

(ウ) 排泄時のサインをつかむ。

(エ) 時間排泄の確立（トイレ，便器に慣れる）。

エ 衣類等の着脱

(ア) 体温調節をし，快適に過ごせるよう適切に着脱をする。また，必要に応じて下肢装具の着脱をする。

(イ) 協力動作がしやすい姿勢や環境を整える。着脱の意識づけ，姿勢の配慮，着脱しやすい衣服の検討を行う。

オ 生活環境「構造化により生活環境を整える」

(ア) 遊びを通して学習できるよう環境を整える。

(イ) 障害特性に配慮し，時間や空間をわかりやすく構造化する。

(2) 運動・感覚

ア 身体を動かす遊び

(ア) 子どもの身体の部位（手，足，顔等）を意識させる（ブラッシング，からだうた遊び等）。

(イ) 他動的に動かして体の機能を高める。

大人の体や道具（バランスボール，オシロブロック等）を使用して行う。

(ウ) 色々な動きや姿勢を経験させ慣れるようにする。

寝返りから立位までの動きや色々な姿勢に慣れるよう，曲に合わせて手足を十分に使いわせる（からだうた遊び等）。

(エ) 自発的な動きを引き出す

子どもの好きなものや遊びを利用し，動きを引き出す。

イ 身体感覚を育てる遊び

(ア) からだうた遊び

(イ) 皮膚を刺激する遊び

感触に慣れ，楽しんで行えるよう配慮する（ボールプール，水，紙，小麦粉粘土等）。

(ウ) 身体接触を楽しむ遊び

ブラッシング，親子のふれあい遊び等。

(エ) 前庭感覚遊び

シーツハンモック，トランポリン，箱ブランコ，滑り台等。

(オ) 五感を使って楽しむ遊び

散歩や戸外遊びをとおして風や日差しなど自然を感じる。

(3) 認知・行動

ア 見る力を育てる

(ア) 注視・追視を促す（ペープサート，パネルシアター，大型絵本等）。

(イ) 視野に入る距離で，色や形のはっきりしたものを見せる。

(ウ) 暗い部屋で光るものを見せる。

イ 目と手の協応を促す

(ア) 製作あそびや玩具等をとおして手指の操作を引き出し楽しみながら取り組めるよう配慮する。

(イ) 手元を意識させるようことばかけをしたり，変化にも気づかせるようにする。

ウ 模倣を促す

歌や身振りなど楽しい雰囲気の中で行い，時に手を添えたり，声かけをしたりしながら，同じ動作を促す。

エ 聞く力を育てる

(ア) 歌やお話を一緒に楽しむ。

(イ) 声，楽器，おもちゃ等の音に触れる機会を作る。

(ウ) 歌やお話に注意を向けられるよう位置や音の大きさなどに配慮する。

(4) 言語・コミュニケーション

ア 呼名による返事

声を出す，手をあげる，先生の顔を見る等の表現を引き出す。

イ ことばの理解

(ア) 日常生活に使われる簡単なことばを人とのやりとりや動作を通して理解できるよう促す（「おはよう」，「ちょうだい」，「バイバイ」等）。

(イ) 遊びを通してことばと事物が一致できるよう促す。

ウ 表現

(ア) 発声，単語，二語文，三語文他，身振りや代替コミュニケーション手段も含め，自分なりに表現できるよう援助し

ていく。

(イ) 代替コミュニケーション手段や道具の工夫をする(絵カード, 音声スイッチ等)。

(5) 人間関係・社会性

ア 人への興味を引き出す

好きな遊びをしながら顔を見せつつ声かけし, 人への関心を引き出す。

イ 人への要求を引き出す

繰り返し同じ活動を行い, 「もっと〇〇したい」という要求を引き出す。

ウ 友だちへの意識を育てる

大人が媒介となり, 友だちと関わる場面や遊びを共有する場面を設定する。

エ 自我を育てる

(ア) 親子関係を基本とし, 人間関係を広げていけるよう促す。

(イ) 親以外の人と関わる経験を通し, 情緒的交流を深めていくようにする。

(ウ) 自己主張や, 他者の要求を受け入れる経験を重ねながら, 集団の中で気持ちをコントロールする経験をさせていく。

(エ) 当番や簡単な手伝いを通し, 役割意識や達成感を味わう経験をする。

4 家族支援

(1) 保護者の思いや考えを尊重し, 子どもの健康や発達を共通理解していく。

(2) 子どもの抱き方や食事のとらせ方, 移動時の介助方法等, 担当者や専門職による具体的な助言を行う。

(3) 保護者同士の交流の機会を提供する。

(4) 保護者研修会を実施する。

- (5) 家族が来所する機会を提供する。
- (6) 個別サポートファイルの利用を勧める。

5 移行支援

- (1) 保育園等と併行利用している子どもの状態や支援内容について、情報共有を行う。
- (2) 移行先の選択に関する相談を行う。
- (3) 移行先との支援内容の共有，子どもの状態，支援方法について引継ぎを行う。

6 地域支援・地域連携

- (1) 子どもが通う医療機関や福祉サービス事業所等と連携し，情報共有しながら子どもや家族の支援を行う。
- (2) 子どものライフステージに応じた切れ目のない支援が実施できるよう，地域の関係機関と連携しながら支援を行う。

7 職員の資質向上

- (1) 外部研修への参加
- (2) 職場内研修の実施（外部講師，事例検討，虐待防止，感染対策等）

8 主な行事等

水遊び，夏まつり，運動会，お楽しみ会，卒園式等

令和8年4月1日 一部改正

親子で過ごす療育時間の流れ（日課）

- 1 登園（9:50～） ※通園バス9:50到着
 - ①親子でしっかり手洗いを行う
 - ②検温（保護者も）・健康調査票記入
 - ③連絡ポーチを出す
 - ④連絡事項, 提出物確認
 - ⑤装具をつける（必要な場合）
 - ⑥水分補給
 - ・欠席の連絡は当日の電話は朝8:40までとする
 - ・遅刻や, 朝訓練後の場合は親子で準備を済ませる

- 2 朝の集まり（10:15～）
 - ①歌 「手をつなごう」 隣の子を意識して手を触る・保護者と手をつなぐ。
 - ②今日の予定・連絡事項
絵カード（大）を見て活動の流れ（内容・場所）を意識する。
1 朝の集まり 2 遊び（午前の活動） 3 食事
4 午後の遊び 5 帰りの会
 - ③当番確認 当番カード（写真）で指名された子を確認する。
ワッペンを付けて当番を意識する。
歌を始めるための号令をかける（保護者と一緒に各々の表現方法で行う）。
 - ④歌 「おはようのうた」歌の後, おはようの号令をかける。
 - ⑤「ガンバリマンのうた」自分の名前が呼ばれることを期待する。
友だち一人ひとりを意識する。
 - ⑥体操
ラジオ体操 保護者の腰痛予防。
子どもの体操 みんなで音楽に合わせて身体を動かす。

⑦移動 宇宙船の歌を聴きながら次の活動場所へ移動する。

3 呼名と手遊び歌（10:40～）

①呼名 「どこでしょう」の歌の後，呼名に返事をする。

（声，表情，先生の顔を見る，手の動き等の表現）

②手遊び歌（親子でのふれあい。よく聞く，注目する。模倣する。身体を意識する。）

4 主活動（10:50～）

①ブラッシング

子どもが自分の身体を意識するよう，体幹，四肢，口周辺，口腔内等，丁寧に行う。

②シーツハンモック

前庭感覚を刺激し，体がどちらを向いているか，どれくらい傾いているか，動いているかといった重力と関係する感覚を感じる。

③からだうた遊び

寝返りから立位までの色々な動きや姿勢を子に合わせて行う。

④感触遊び

色々な物に触れる。

（ボールプール，水，紙，小麦粉粘土等）

⑤ペープサート，パネルシアター（ブラック），紙芝居等

注視・追視する，声かけや話を聞く。

⑥楽器遊び

色々な音を聞く，楽器に触れる，音を出してみる。

⑦行事等 季節を感じる。

5 食事準備（11:25～）

(1) 排泄 おむつ替え，トイレトレーニング等
手洗い

(2) エプロン等の準備

(3) 着席 歌の後，挨拶をしてから食べ始める

(4) 食具や形態，アレルギー等の確認

6 食事（11：45～）

(1) 親子または職員の介助で食事をする

(2) 口の動きや嚥下の状況，姿勢，介助方法等を確認する

(3) 外部講師による食事指導（一人につき年1回程度）

7 歯みがき・排泄

食べ終えた親子から歯磨き・排泄を済ませる。

8 午後の活動（13：00～13：50）

①親子分離

・保護者と離れた環境で，子どもの課題を取り入れた遊びを行う。

・保護者は保護者室で懇談，または建物内で待機。

・保護者研修。

②親子活動

・親子で過ごし，愛着を深める。安心して過ごす。

・親子で午睡の時間を過ごす。

・好きな遊びを楽しむ。

・訓練で行っている個々の課題を親子で行う。

9 帰りの会（13：50～14：15）

始まる前に水分補給する

①帰りの活動

ペープサート等の見る・聞く活動や，シーツハンモック等の子どもの好きな活動。

②「さよならのうた」 終わりを意識する。

③当番の号令 歌の後，さよならの挨拶をする。

④連絡帳を受け取る

⑤排泄

10 降園（14：20）

（入園後1か月程度は13：00まで）

※訓練（予約制）

1 枠目 9:20～10:00

2 枠目 10:40～11:20

3 枠目 13:00～13:40